

# 南の風 357

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

前号まで紹介したクリニックでの萩原ヘッドの話から、U 女子日本代表の練習回数の確保や調整、スキル定着の難しさを感じました。

本号ではU 女子日本代表の課題について、私の感想を書きます。

日本代表の選手選考方法（各地方や各県からの選考）もさることながら、強化合宿や練習会の日数確保等については、マネジメントの分野に関係することなのでここでは触れませんが、各地方のU の組織の協力が不可欠なのは言うまでもありません。

このクリニックの冒頭に、萩原ヘッドが『みんなの代表を強くしたい』と話しました。これはU 女子日本代表が、我々日本全体の代表であるからバスケットボールに携わる日本全国の選手、保護者、指導者、関係者が一致団結して盛り上げたいということだと感じました。そして裏を返せば、日本全国のU19～15の指導者に、日々の練習から『みんなの代表』を強くするために協力してほしい、という訴えであると思いました。世界と伍していくチームをつくるためには、U 女子日本代表の活動（強化練習及び合宿等）だけでは追いつかないということです。

前振りが長くなりました。それではU 女子日本代表のスキル課題について私の考えです。以下のことはミニバス、中学時代に取り組みたいスキルです。

## 《ハーフコートオフense》

### ①スペーシング・味方のドライブへの合わせ

スペーシングは、ミニバスのうちから身につけておくべきスキルです。基本的な5人の動き方を学ぶことは、ハーフコートオフenseでは欠かせません。ミニバスでは、ドライブからの崩しが中心になることが多いです。味方のドライブに対して、周りの4人が邪魔せずにスペースを取って協力することが大事です。スペーシングの詳しい説明は、南の風で以前取り上げましたのでここでは触れません。ドライブの方向によって、5D（ドライブ、ドリフト、ドラッグ、ダイブ、ディフェンス）の動きが基本となります。ドライブの邪魔をしない、意図を持って動くことはたいへん重要です。ミニバス、中学時代に身につけたいスキルです。

### ②スクリーンプレー

スクリーンプレーについては、指導者によってさまざまな考えがあると思います。「ミニバスではスクリーンにたよるのはよくない」、「1 on 1 からのパス&ランやポストでの合わせで十分では」、「スクリーンプレーは必要。なぜならすれをつくりノーマークができる可能性が高い」、「どうしても得点したい時に有効なプレーである」などの考えがあります。

クリニックで萩原ヘッドも指摘していたように、『スクリーンプレーは合理的なプレー』です。相手のディフェンスが守り切れない状況を意図的に作りだすからです。ディフェンスの邪魔をしてノーマークをつくりだすからです。

私は、スクリーンプレーはミニバスから取り入れるべきと考えます。根拠は次号にします。